

IV 各教科の分析結果

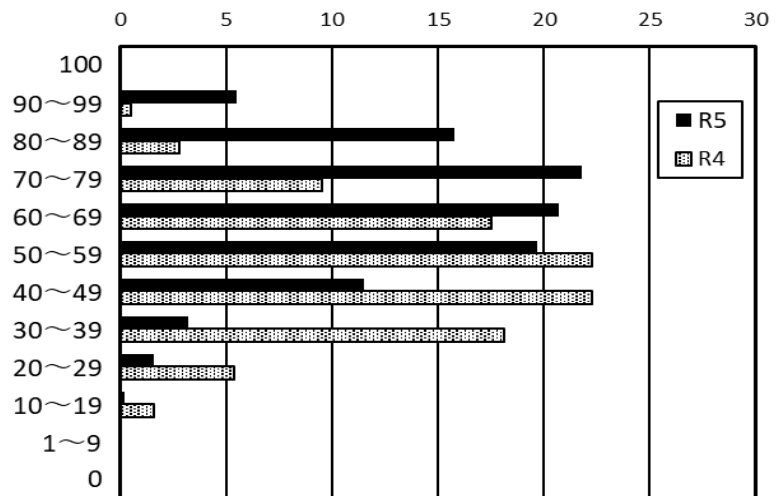
国 語

1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	割合 %	R5 %	R4 %
100	0.0	0.0	0.0
90～99	5.5	0.5	0.5
80～89	15.8	2.8	2.8
70～79	21.8	9.5	9.5
60～69	20.7	17.5	17.5
50～59	19.7	22.3	22.3
40～49	11.5	22.3	22.3
30～39	3.2	18.1	18.1
20～29	1.6	5.4	5.4
10～19	0.2	1.6	1.6
1～9	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0

〈グラフ〉得点分布



*合格者の中から、無作為に抽出した619人(20.0%)の結果である。

〈表2〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
㊦	文学的な文章	72.6	67.8	62.7	60.1	72.3
㊧	説明的な文章	67.3	59.0	64.1	48.3	67.6
㊨	言語活動	56.1	59.3	52.4	49.3	56.5
㊩	古典	59.4	54.4	55.0	42.4	61.4

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点^(※)は、67.0点で、昨年度と比べ上昇した(昨年度51.9点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者3,094人のものである。

〈表1〉に関して、70点台の人数が全体の21.8%で最も多い(昨年度は、40点台と50点台で22.3%)。70点以上の人数は全体の43.1%で、昨年度に比べ増加した(昨年度12.7%)。40点未満の人数は全体の5.0%で、昨年度に比べ減少した(昨年度25.1%)。

〈表2〉について、問題の正答率は、すべての大問で昨年度より高かった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率」について、正答率80%以上の問題数は8問で昨年度に比べ増加した(昨年度7問)。基礎的・基本的な言語事項や内容を問う問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は2問で昨年度に比べ減少した(昨年度10問)。文章や資料から読み取った情報を用いて思考、判断、表現する設問の正答率が低かった。具体的には、漢字の読み書き(㊦、㊧の問一)、描写を基にした心情の理解(㊦の問三)、書き手の論理の展開を捉える(㊦の問三)、文章全体と部分との関係に注意しながら主張と例示との関係を捉える(㊦の問四)といった、叙述に即した内容の理解を問う選択型問題の正答率が高かった。一方、文章を批判的に読みながら文章に表れているものの見方や考え方について考える(㊦の問五)、現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典にあらわれたものの見方や考え方を知る(㊩の問五1)といった問題の正答率が低かった。

3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率(%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
目	問一	文学的な文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。	77.9											
				68.7											
				98.4											
	問二		語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	76.1											
	問三		場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化について、描写を基に捉えることができる。	94.5											
	問四		目的に応じて複数の情報を整理しながら、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	58.1											
	問五		文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	73.3											
	問六		文章の構成や表現の仕方について評価することができる。	59.9											
目	問一	説明的な文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。	81.6											
				98.2											
				99.7											
	問二		目的に応じて必要な情報に着目して要約して、内容を解釈することができる。	80.1											
	問三		書き手の論理の展開を捉えることで、文章の内容を正確に理解することができる。	90.3											
	問四		文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。	85.8											
	問五		文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	16.4											
問六	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	47.3													
目	問一	言語活動	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。	76.0											
	問二		話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。	72.4											
	問三		アイ	目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。	43.9										
			二段落	資料を適切に引用しながら、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。											
	問四		漢字の行書の基礎的な書き方を理解して身近な文字を行書で書くことができる。	47.2											
四	問一	古典	時間の経過による言葉の変化について理解することができる。	78.3											
			歴史的背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しむことができる。	52.7											
	問二		歴史的背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しむことができる。	73.5											
	問三		故事成語について理解を深めることができる。	70.0											
	問四		音読に必要な訓読の仕方を知ることができる。	77.5											
	問五		1	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を	30.5										
			2	知ることができる。	66.3										